

がん検診の種類について

部位	検診の方法	検診方法の詳細
肺	胸部 X 線検査と 喀痰細胞診の併用	「胸部 X 線検査」は肺全体の X 線撮影です。 「喀痰細胞診」は主に喫煙者を対象として「胸部 X 線検査」に併用して行います。痰を採取して気管支等のがんから痰に混じって出てくるがん細胞の有無を顕微鏡で観察します。
	低線量 CT (胸部 CT 検査)	CT 検査は、X 線を使って体の内部（横断面）を描き出します。がんの大きさ、性質、周囲の臓器への広がりなどを観察することができます。
胃	胃 X 線検査	胃 X 線検査は、バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、腹部の X 線撮影し胃の形や粘膜の状態を観察する検査です。
	胃内視鏡検査	口、あるいは鼻からファイバースコープで胃の内部を直接みて、がんが疑われる場所の病変の範囲や深さを調べる検査です。
	ペプシノゲン	血液検査によって、胃粘膜の萎縮度（いしゅくど）を調べます。 胃がんを直接見つけるための検査ではありませんが、一部の胃がんは萎縮の進んだ粘膜から発生することがあるため、この検査で胃がんが見つかることがあります。
	ヘリコバクター ピロリ抗体	血液検査によって、ヘリコバクターピロリ菌に感染しているかどうかを調べます。ヘリコバクターピロリ菌は、胃がんの原因となりうる細菌ですが感染した人がすべて胃がんになるわけではありません。この検査では感染しているかどうかはわかりますが胃がんの診断はできません。
大腸	便潜血検査	がんやポリープなどの大腸疾患があると、大腸内に出血することがあります。この検査はその血液を検出する検査です。便潜血検査が陽性になった場合には、その原因を明らかにするために精密検査を受けることが必要です。
	注腸 X 線検査	肛門からチューブを挿入してバリウム（造影剤）と空気を注入し、大腸の全部位の X 線写真を撮影して、がんやポリープなどの病変がないかを確認します。大腸のどこに病変があるのか体の向きを変えながらさまざまな方向から撮影します。
	全大腸内視鏡検査 (全大腸) (S 状結腸)	内視鏡を肛門から挿入して、大腸を詳細に調べます。ポリープなどの異常がみられた場合は一部組織を採取して悪性か良性かを鑑別したり、内視鏡で根治可能な早期がんと手術が必要な病変との判別を行うこともできます。
乳	マンモグラフィ	マンモグラフィとは、乳房 X 線撮影のことです。この検査では、医師の触診だけでは発見できないしこりを診断することができます。小さな、とくに石灰化のある乳がんの発見に適しています。このほか、乳房の良性疾患などが診断できます。

部位	検診の方法	検診方法の詳細
乳	超音波検査	超音波により乳房の病変を検査する方法です。乳房超音波検査は、医師の触診だけでは発見できない小さいしこりや、しこりの良性、悪性の診断に用いられています。乳腺の発達した人や若年者の検査に適しています。
	視触診	乳房を観察して、形状や左右差、皮膚の変化を調べます。また、指で乳房やわきの下に触れて、しこりの性質（硬さや動き方、大きさや形、個数など）を調べます。
子宮	細胞診 (従来法) (液状検体法)	子宮の入り口（外子宮口）付近を綿棒、ブラシ、またはヘラのような器具でこすって細胞を採取し、顕微鏡で正常な細胞かどうかを確認します。 (従来法) 採取した細胞をスライドガラスに直接塗布し顕微鏡で観察する方法 (液状検体法) 採取した細胞を固定液につけて回収し、それをスライドガラスに塗布し観察する方法
	HPV 検査	子宮頸がんの原因は高リスク型ヒトパピローマウィルス（HPV）の持続感染であることが明らかにされました。子宮頸部をブラシで擦過して得られた検体をもとに子宮頸部の高リスク型HPV感染の有無を調べる検査です。この検査では感染の有無を調べることはできますが、がんの診断には用いることができません。
前立腺	PSA 検査	前立腺がんになると血液中の前立腺特異抗原（PSA）という物質が増加します。PSA 検査は血液検査によりこの PSA の値を調べます。
	直腸診	肛門から指を挿入して前立腺の状態を確認する検査です。